

平成28年度第2回スポーツ推進計画策定委員の会議

平成28年11月17日(木)

午後6時30分開会

開催日時	平成28年11月17日	開会 6時30分 閉会 8時30分	
場 所	第二庁舎801会議室		
出席委員	委員 長 植田 征司 副委員 長 田中 幸夫 委 員 安東 和義 委 員 秋澤 恵子 委 員 田澤 英徳	委 員 石井 晴美 委 員 雨宮 安雄 委 員 千本木勘博 委 員 早瀬 圭代	
欠席委員	委 員 宮崎 英子		
事務局	生涯学習課長 石原 弘一 スポーツ振興係長 松本 浩明 スポーツ振興係主任 宮 航太 スポーツ振興係主事 三枝まなみ		
傍聴者 人 数	<u>0</u> 名		

日程	次 第
	<ol style="list-style-type: none">1 策定委員（欠員分）委嘱状の伝達2 策定委員の自己紹介（欠員分）3 資料・スケジュール説明（事務局）4 審議<ol style="list-style-type: none">ア 基本理念の確定イ 基本目標と成果目標5 その他

松本スポーツ振興係長 それでは、お時間になりましたので、皆様お疲れさまでございます。お忙しいところ、大変恐縮でございます。

 まず冒頭に、議事録、前回の第1回目の議事録が置いてあろうと思います。これは、メールもしくは郵便で1度お目通ししていただきまして、その後、訂正箇所がある部分については訂正をさせていただきます。

 まず、この議事録についてご承認、この場でいただきたいと思えますけれども、よろしいでしょうか。

 私も、録音のほうは2度ぐらい聞いてチェックしておりますので大丈夫だとは思いますが。

安東委員 ほかの人のところは見てください。自分のところは大丈夫です。

石原生涯学習課長 何かありましたら、後ほどでも、明日にでも事務局にお申し出いただければと思います。

松本スポーツ振興係長 じゃ、よろしく。ご承認いただいたということでよろしいでしょうか。

 (「はい」の声あり)

松本スポーツ振興係長 ありがとうございます。

 それでは、まずお手元の資料のご説明をしたいと思うんですが、よろしいでしょうか。

 まず、先ほど見ていただきました議事録があって、次第がございます。次第はこんな感じでいきたいと思えます。それから、スポーツ推進策定委員の一覧、マル秘になっておりますので、個人情報でするので取り扱いには十分気をつけていただきたいと思えます。

 それから、ホチキスどめをしてあります第3章計画の基本的な考え方、1から2というふうに、2枚束ねてあるのが。それから、石井委員のほうから、第2回の会議に向けて書いてあるものがございます。それから、差し込み内容ということで、今日、ちょっと議論

していただく中で参考になろうかと思ひまして、私のほうでつくらせていただいたんですが、それが1枚。それから最後に、図みたいな、小金井市スポーツ推進実施率と上にあつて、人の顔みたいなものですね。皆さんそろっておりますでしょうか。

(「はい」の声あり)

松本スポーツ振興係長　　ありがとうございます。

それでは、すみません、委員長。

植田委員長　　では、第2回のスポーツ推進計画策定委員会を始めたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

では、1番、策定委員(欠員分)委託状の伝達ということで。

石原生涯学習課長　　すいません。教育長の代理として、私のほうから早瀬委員のほうに委嘱状の伝達のほうをさせていただきます。

委嘱状、早瀬圭代様。

小金井市スポーツ推進計画策定委員を委嘱する。

期間、平成28年11月17日から平成29年3月31日まで。

平成28年11月17日、小金井市教育委員会　　。

よろしくお願ひいたします。

植田委員長　　課長、ありがとうございます。

では、引き続きまして、2番、策定委員の自己紹介という。すいません、自己紹介のほうを、簡単で結構なので、よろしくお願ひいたします。

早瀬委員　　こんばんは。私は、3月に小金井市のほうに引っ越してきました。子供が2人おりまして、4歳と2歳の女の子がいます。独身時代は京都のほうで、実家が京都なんですけど、京都の佛教大学という大学で陸上部のコーチをしていました。

まだ引っ越してきてそんなにたっていないんですけど、市民の代表として少しでもみんなが健康で長生きしていける小金井市の市民の1人、私も1人として意見を出していけたらなと思ひます。よろしくお願ひします。

植田委員長 ありがとうございます。早瀬さんが今回初めてなので、私たちも軽く自己紹介だけさせていただければなと思いますが、すみません、私から。

私、小金井市総合体育館小金井市栗山健康運動センターの館長をやっております植田と申します。よろしくお願いいたします。

田中副委員長 私、東京農工大学の体育の教師をしています田中です。よろしくお願いいたします。

石井委員 高齢者の通所施設をやっております作業療法士の石井と申します。よろしくお願いいたします。

雨宮委員 生涯福祉関係の自立支援課のほうから回されました雨宮と申します。よろしくお願いいたします。

千本木委員 私、小金井市のスポーツ推進委員協議会のほうで14年活動しております、梶野町の千本木です。よろしく。

田澤委員 スポーツ推進協議会会長の田澤です。よろしくお願いいたします。

安東委員 小金井市体育協会の専務理事をしております安東と申します。よろしくお願いいたします。

秋澤委員 地域スポーツクラブ小金井倶楽部の秋澤と申します。よろしくお願いいたします。

植田委員長 このメンバーで頑張っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

では、3番、資料・スケジュール説明を事務局よりお願いいたします。

松本スポーツ振興係長 先にやっちゃいましたね。1点だけ。今日、前回は録音したんですが、議事録作成に関して、発言の前にお名前を、忘れちゃうこともあるかと思いますが、お名前をちょっと言っていた

だいて発言をお願いしたいと思います。ご協力方、よろしくお願いします。

以上でございます。

植田委員長

では、4番の審議のほうに入りたいと思います。審議内容は、アの基本理念の確定と、イ、基本目標と成果目標ということになります。

資料のホチキスでつづつある2枚分ですね。第3章計画の基本的な考え方(1)基本理念というところで、前回、ここの基本理念を皆さんで話し合っ、キーワードとなる言葉を考えてこちらにまとめていただいた形になります。

(2)のほうは、本日、基本目標と成果目標というものの①から④まで、今日がこの①から④までを皆さんで話し合っ決めていきたいというふうに思っております。(1)の基本理念につきましては、前回、議論をさせていただいてキーワードを入れさせていただきましたので、おおむねこの形でいきたいと思っております。どうしても、これにちょっと、この文言がもう少しだということがあれば、ちょっとご意見をいただきたいかなというふうに思うんですが、石井委員のほうから、配付されたときに資料としてご意見を頂戴している次第なんですけども、基本理念のところですね。基本理念「豊かな生涯をスポーツとともに」以下説明的になり過ぎているように思われるというご意見がございます。

まず、これに関してでございますが、何か皆様のほうからご意見等はございますか。

では、すいません、石井さん、もしよろしければ、ここのところの部分の皆さんにご説明いただけるとありがたいです。

石井委員

理念の説明、この理念にはということをあえて言わなくてもいいかなと思って。私は、もうちょっと短く、ほんとうに僭越なんですけど、ここに例を書いてきたんですけれども、スポーツの効用をもうちょっとちゃんと普通にしゃべることと、それから誰でもということを出した理由をあえて書かなくてもいいのかなということで、こんなふうな内容に全く変えてしまったんですけれども。もうちょっと短くしなみたつもりなんですけれども。

今、市のほうで書いているものを、あそこを直してここを直して

というのとはちょっと違うんです。もう全く変えてしまったんですけども、いかがかなと。

植田委員長 皆さんも一読はされていると思いますが、何かご意見はございますか。

基本理念に関しては、前回さんざん議論させていただいたので、あまりここで議論をしていると次がちょっと時間なくなってしまうので。

安東委員 体育協会の安東ですが、確かに基本理念のところ、下から4行目ですが、「だれでも」という記述した理由を書いているんですけど、これもいらぬのかなと思います。単にこれを抜けばいいのかなというふうに。「考えたからです」までをとって、「だれでも気軽にスポーツに親しむことができ」という部分で削除するだけでいいのではないかと思います。確かに、この部分で入れた理由を書くのは、ちょっと。一番頭でもありますので、ないほうが良いような気がいたします。

植田委員長 ありがとうございます。ほかにご意見はございますか。

石井委員 今、安東先生おっしゃった、「だれでも」から全部をとってしまうと、ここに入れた「仲間づくり」とか、同じく「元気な」というのがなくなっちゃう。

安東委員 「だれでもということ」を最初に出した理由は、人を中心にすることが重要と考えたからです」と、ここまでをとるんです。理由の文をとるということでどうでしょうか。

田中副委員長 この理念にはとか、説明が書かれてあって、こういうものは省くべきだと思いますし、ちょっと説明的になっているという気がするんです。語句の使い方とかというのは人の特徴があるんですけども、基本的には、この文章を、今別途安東さんが言ったように、切りはりしていくのがいいかなという気がします。

石井さんが考えてくれた、ちょっと緑豊かなかが入っているので、そういうところもいいかなという気もするんで、その辺

をミックスしたような形で、もう1回リメイクしたらいいんじゃないかなと。

安東委員 石井さんのやつ、今日初めて拝見するので、コメントのしょうがちよっとありませんで。

田中副委員長 説明はいらないですよ、「だれでも」というのとか、「この理念は」とかというのがぼんと入っているのは全然むだだなという気はしますけど。

秋澤委員 今おっしゃったように、「この理念には」とか、安東さんがおっしゃったように「だれでも」というところを「考えたからです」までのところもいらないかと思うんですが、そうすると、「小金井市を目指していこうとするものです」ということが2つ、下も同じような文章になってしまっているんです。ここをうまく何かすればいいのかなということですよ。わかりました。

田中副委員長 同じ言葉を重ねてもあれなので、これに対して、こうやってこれを目指していくものですよというのをまとめればいいんじゃないかなと。

千本木委員 千本木ですが、理念というのは、我々組織のほんとうの根幹を文章であらわすのかなと、中身を。ということで、長ったらしく行を重ねればいいというものじゃなくして、今、こうしたほうがいい、ああしたほうがいいということじゃなくして、もう少し凝縮した中身、理念で、ほんとうにもっともっと数行でまとめればいいのかなと。ここの部分をどうしたらいい、ここの部分を削除とかということじゃなくて、凝縮して、一目で一般市民に理解できるような内容のほうがよろしいのかなと思います。

植田委員長 今、千本木さんのご意見はしごくもつともだだと思います。今、皆さんがお話しされている中身は、文章だとかいうところになっていて、まずちよっと見直していただきたいんですけど、まずこの文言で見ていただいて、文章をここに凝縮するといったところは、今からだと何日か時間をいただかないとまとめきれないと思います。

ただ、基本理念なくして今日の基本目標と成果目標のほうには入っていきませんので、まず重複している文章だとかというのに関してはもう1度もんでいただくとしまして、理念のワードとしてはこれでいかがでしょう。この理念に対してこのワードだけはどうしてもつけ足したいと。先ほどお話にありました緑豊かな小金井市だとか、それも文章ですかね。

田中副委員長 基本的にはいいと思うんです。一番の「豊かな生涯をスポーツとともに」というのが、これが全てなので、これに向かってどういうふうになっていくかということなので、あとは余計なものを削ったり、ちょっとすてきな文章じゃないけど、ちょっと調べてばぱっと打ち出して、できればいいんじゃないかなという気がします。

ので、多分、先月お話をした皆さんのキーワードが大体盛り込まれたような形になっていると思いますので、これでよろしいかなと思っています。

石井委員 例えばこっちの市のほうの最後のところですけども、文章として「目指していくものです」みたいな文章ではなくて、目指していきますとか、そういうほうが、全体としてあんまり説明的なんだけどなという意味で、この辺のこともちょっと変えてみるとよろしいかなと思います。

田澤委員 文言の文章の最初とか最後とかの、石井さんが提案されているようなですます調とかである調とかということも含めて、「豊かな生涯スポーツとともに」というのが基本理念で、これで大体決まっていたと思うので、前回お話ししたときに使わせてもらった基本理念のキーワードというのがあったと思うので、これと、あとここにある文章とをあわせてちょっと組み直してもらおうということをしていけばいいんじゃないですか。

別に新しい案は特にないと思うし、例えば希望あふれる小金井市を目指すとか幸せな小金井市とか、いろいろ前回も出ていたと思うので、それともともこのキーワードとして出していただいた資料があったと思うので、それをうまく組み合わせていただいて、あと重複した文章を削るということでもとめたほうが、次の議題にいきやすいんじゃないですか。

植田委員長 皆さんの意見も大体、ここで同じような方向性がとれましたので、理念は理念として、「豊かな生涯をスポーツとともに」という理念を持って、あと文章のところを再精査していただいてまとめ上げるということで、皆様、よろしいでしょうか。

では、基本理念はそういう形でもう1度まとめていくというところで、(2)の基本目標と成果目標に入っていきたいと思います。

①ライフステージに応じたスポーツ活動の推進、「いつでも、どこでも、だれでも」から始まりまして、この①を皆さんに議論していただきたいと思います。

石井委員 その前にいいでしょうか。前出していただいたものと順序を変えてらっしゃるんですね。前の素案とは違うんです。その辺の説明を伺った上でやったほうがよろしいかと思うんですけど。

私は今回のやつでいいと思っていますが、前と違うんですね、順序が。それは、市のほうの方のご説明を伺いたいと。

植田委員長 では、今、石井委員の、前回の素案と順序を並び変えたご説明のほうを、事務局のほうでお願いいたします。

松本スポーツ振興係長 事務局です。今、お手元にある2枚つづりのものは、前回、1回目の議論の中で、何を一番最初に持ってきたほうがいいのかというところから順序づけをさせていただいたものでございます。1番目に「ライフステージに応じたスポーツ活動の推進」ということで持ってきています。

もし、何か、いや、実はこっちのほうがいいんだということがあれば、今日、お出しいただいて、また順序変えということも考えてよろしいかと思えます。

基本目標はこの4つを基本として、成果目標なんですけど、成果目標で1枚、この紙があらうかと思えます。パーセンテージが書いてある「差込内容P5④競技力・・・の後」ということで、最初のたたき台の5ページ、今日、お持ちになってらっしゃいますか。その5ページの第4章の後に、成果目標ということで数字的なもの、数字の見えるものということで、仮になんですけども、計画最終年度における成果目標ということで、59.4%が下の65%

という数字をそこに入れようとしてみてはどうかというところで、この紙がございます。

石井委員 5 ページ? これの5 ページ。

松本スポーツ振興係長 はい、これの第4章があれです。その前に、④競技力向上に向けた選手育成、指導者の資質向上とございます。その後、あくまでもここに書いてあるのは基本目標でしか書いていないので、成果目標というのは数字的なもの、例えば成人で週一、二回以上スポーツを実施した割合を、平成27年度に、スポーツ実施率調査で出したときに、そのときのパーセンテージが

59.4%なので、これを3年後、どうするかというところで、これは仮の65%なんです、これは差し込んでみてはどうかと。

石井委員 ⑤で。

松本スポーツ振興係長 はい。

石井委員 ⑤にするんですか。

松本スポーツ振興係長 はい。⑤というか、④までは基本理念として、それとは別に成果目標として、⑤ではなくて、それとは別に囲まれている記事を差し込んでどうかとは思っていたんですが。

石井委員 (3)。

松本スポーツ振興係長 (3)でも結構ですし。

田澤委員 でも、(2)のところは成果目標となっているから、成果目標で5番にしちゃえばいいんじゃないですか。

松本スポーツ振興係長 その辺は、どういうふうにするからお任せしたいと思います。

田澤委員 だって、基本目標と成果目標だから、もう題が出ているわけだから、(3) ではないですよ。

松本スポーツ振興係長 説明は以上です。

石原生涯学習課長 石原ですけど、ちょっと整理したいんですけど、最初の石井委員のほうで、何でライフステージに応じたスポーツ活動が頭に来たのかというところがあって、前回の会議録をずっとなめていくと、安東委員なんかは、スポーツ、運動を通じた健康づくりがいいんじゃないかというような発言はあって、こういったライフステージとかを上に乗せたほうが良いというご意見はなかったようなんですけど、基本理念をつくっていく中で、このライフステージに応じたスポーツ活動の推進みたいなものと、この基本理念の親和性が非常に高かったんで、自然に基本理念に非常に近いものとしてライフステージのものが上がってきたのかなというふうに、前回の会議を踏襲すると、そのようなことでございますので、ご意見ございましたらお願いいたします。

石井委員 それで、私もいいなと思いました。

安東委員 私、「だれでも」というのが一番最初にくるとなると、③のライフステージに応じたのが①にくるのがよいと思います。

田澤委員 私もそう思います。それは、スポーツ環境の充実ってなかなか難しいし。

安東委員 それを言っちゃおしまいじゃない。

田澤委員 絶対難しいと思うので、体育館をつくれとか競技場をつくれとかいう話になったり、学校をもっと開放しろとか、もっとどこかあいたところを開放してくれといっても、なかなかいろんな団体さんとか会社さんとか、使わせてもらうにしても、土地であったり何だりって絶対難しいものがあるので、こういうライフステージとかスポーツ・運動に通じた健康づくりとかというのを①②に持ってきて、環境はまず二の次、三の次にして、持って行ってやっていかなと、

小金井としては始まらないと思うし、これでいいんじゃないかなと、順番的にはと思います。

以上です。

植田委員長 ありがとうございました。

田中副委員長 この出された順番でいいと思うんですけども、①②の順位づけとか重みづけというのも、多少あると思うんですけども、これが例えば、順番はこれがいいと思います。格好からいっても。

 それが、例えば①じゃなくて点でもいいわけですよ。そういう4つの柱をメインにしてやっていくんだというふうな考え方というのが、やっぱり必要じゃないかなと思います。そういう視点というか。

 だから、順番、当然人がいて、人が健康になって、それを支えるものがあって、体育館があつてみたいなのを、当然。そして、それをしてくれる指導者がいると。そういう考え方をしていいと思います。それが、上手に全体が動くような仕組みだということを、もう少し認識すればよろしいのかと思います。

植田委員長 ありがとうございます。田中先生が言うなら間違いないでしょう。石井委員、いかがでしょうか。

石井委員 結構です。ありがとうございます。

植田委員長 では、この形で進めさせていただきたいと思います。①ライフステージに応じたスポーツ活動の推進ということで、多分、基本理念の文章をちょっといじっていただく関係で、多少下も変わってくるのかなという部分もありますが、一応、大枠、この基本理念はこれだということで想定しながら、この文章を考えていきたいかなと思っております。

 早速なんですけど、私、植田のほうから。括弧の「いつでも、どこでも、だれでも」、上ではたしか「だれでも」から。

安東委員 今回、一番最後になったわけですね。

植田委員長 もし、上にこの文言が入ってくるのであれば、①以降、その言葉で統一するということによろしいでしょうか。

安東委員 そうすると、この3つを称するとき、「だれでも、いつでも、どこでも」という共通認識で、今後進めるということですね。賛成です。

田中副委員長 (2)の基本目標と成果目標と書いてあったときに、先ほど成果目標を出されたんですけど、最初これを見たときには、1つ1つの基本目標に対して成果目標があるのかなというふうに考えていたわけです。ですから、そういう意味では、この文章自体がのっぺりとして、どこでもあるようなという失礼ですけど、どういうふうに持っていったらいいのかなという気がしていたので、もうちょっと具体性がある、あるいは成果目標はある程度盛り込まれていたらいいんじゃないかなという気はしたんですけど、これを最初に見たときに。

全体としてはこれだという。成人の方が週2回ぐらいスポーツをしましょうとなってはいるんですけど、この辺は、皆さん、どのようにお考えなのかなと思ひまして、ちょっと私自身があれっと思っただんですけど。

要するに、4つの目標に対して成果をどれぐらいもっていくのかというふうにするのかなと思ひていたんですけど、どうですか。

安東委員 (2)の基本目標と成果目標って、すごくわかりにくいと思ひます。目標と成果、民間でやってきたものですから、絶えず目標を掲げて達成率を毎日追われていたものですから、そういうふうになってきましたので、もう少しわかりやすい、こういう計画で何を指す。柱を4本立てましたから、4本に対して、おのおのに指すべき……。この差し込みの文章にもありましたよね。これみたいなものが、もうちょっと具体的なものが出てくるのがいいのかなというふうに考えておひまして、基本目標と成果目標で、この文字面だけですと、成果目標がほとんど語られていないということになりますので、もうこういうパーセンテージが出るのがいいのか、そういうある程度の具体的なものがここで少し触れられるべきじゃないかと思ひます。

植田委員長 なかなか皆さん、ぱっとこない部分があったり、そうですね、確かにこういう形になると、民間だと活動の推進の中で、1年目はこの活動をして何%上げます、4年後にはこの目標を達成しますみたいな、そういうイメージですよ。

 確かに、今回のこれがそれにしっくりくるのかというのも、私自身もあまりわからないんですが、成果目標となると、そういったものがあってもいいのかなという気はしますが。

石井委員 何となくにじみ出てはいると思うので、(2)基本目標とって、(3)成果目標というふうに立て直しちゃって、さっきの、ささやかな成果目標ですけれども、⑤にしようかといったやつの辺を(3)に入れていけばもうちょっと。基本目標と成果目標だと、1個ずつに全部入れなくちゃいけなくなっちゃうので、成果目標は少しでもいいと思うので、そういうふうにするとすっきりするのではないかなと思うんですけれども。

 確かに、4本の柱に1個ずつ成果目標を書いてもいいけど、なかなか難しいのではないかなと思います。

植田委員長 ほかには何かご意見ございますか。

石原生涯学習課長 計画のつくり方でパターンが幾つかあって、例えば1つこういう成果目標だけ大目標みたいなもので、こういう上のほうの理念とかのところにはばんと入れて、それであと基本目標にぶら下がる具体的な施策例だとか、それに伴う年度別の、4年後にはこのぐらいの施策が今これしかないものを、このぐらいの施策にしようよみたいなものを、また次の第4章とか施策のところであらうたっていくというやり方もあるので、なかなかこういう目標の中に1個ずつ数字的なものががちがち入れていくというつくりだと、ちょっとしょっぱなから重たくなるのかなと思いますので、この成果目標も、この理念、目標のために何でこの65だとか70だとかという数字じゃなきゃいけないのかというところが、多分、まだ今の段階だと読んでも腑に落ちないと思うので、その辺、つながりみたいなものもボリュームづけはしていかなきゃいけないのかなと思うんですけど、そういった計画のつくりもあるかなと思います。

田中副委員長 第5章のほうで具体的な施策があるんだけど、こういうところに盛り込んでいくという。

千本木委員 この4本の柱というのは、基本理念が基本になるのかなど。それを4つにかみ砕いてあるのかなど、ある面で。だから、先ほど田中先生が言った1番、2番、3番、4番というランクづけは確かに必要ないと思うんですよ。やっぱりこの基本理念を、11万市民じゃないけれども、市民にもう少し具体的にわかりやすく基本目標なり成果目標が掲げられるのかなど。

ですから、ある面では重複しているところもあると思うの、①、②、③、④は。それはそれでいいんですけども、やはり基本的な理念をフォローするというか、サポートする項目に、この4つがなるのかなどということを頭に置きつつ事を進めていけばよろしいのかなど。

植田委員長 ありがとうございます。素晴らしいご意見で、確におっしゃるとおりですね。やっぱり基本理念があつての4本の柱ですから、千本木さんから申し上げていただいたように、今一度基本理念を踏襲しながら4本の柱立てで組んでいくというところで、私もやっていったらいいかなと思います。

あと、この間も田中先生からのご意見いただいた、小金井市らしさというのがちょっと入るといいのかなど。

田中副委員長 らしさは第5章のほうで。理念とか基本的な目標ですから、そこにはよろしいかなという気もしますので、後ろのほうで具体的に出てきたとき、また、例えばスポーツ環境の問題であるとか充実とかといったものをどういうふうにしたらいいのかというのは、小金井の施設の問題とか出てくるので、そこでどういうふうに解決していくかというのを盛り込んでいくようなことでよろしいんじゃないですか。今は、基本的な概念とかそういうことなので。そんなところでは。

安東委員 基本目標というのは何ですか。「豊かな生涯をスポーツとともに」というのが基本目標となりますか。第5章で、基本目標を達成

するための具体的な施策とあるんですけど、そうすると、基本目標を少しはっきり定義をしておかないと。

第5章を読むと、何となく、基本目標はこうだったかなと、こんなのかなと思うようなことがありますけど、基本目標ってどういうふうに考えたらいいんでしょうか。

田中副委員長 理念を現実化するための目標という理解はしていますけれども。

安東委員 基本目標というのが、基本理念を達成するためのということで考えるわけですね。わかりました。

千本木委員 先ほど私も言ったけど、基本理念があつての4本なんですよ。順番は別ですけども、根幹は基本理念なんですよ、土台は。そこに4本の、もう少し細分化した。

石井委員 4本は、皆さんいいだろうということで、この順番もまあまあいいだろうと。⑤が入るのか(3)にするのかは別として、ということなので、第4章、第5章につながるんですけど、その順も変えていっていただかないとおかしくなっちゃうのと、もっと基本的な話で、ですます調を、ちゃんとですます調にするのかである調にするのかというところを確認していただければ。ですます調ですか、である調ですか、行政さんとしては。

石原生涯学習課長 小金井の計画の場合はですます調が多いかなと思っていますので、ですます調のほうにそろえていくほうがいいかなと思います。

石井委員 そういうことなので、①から順に。

植田委員長 基本的に、この計画に関しては、後々またですます調で変わってくるとは思いますが、一応その認識でやっていきたいと思います。

この①から④の柱は、皆さん、これでほぼご理解いただいたということで進めていきたいと思うんですが、この中の文章ですね、とりあえず、ですます調ということよりも、まず中身ですね。先ほどご意見あったのは、ほんとうにこの内容でいいのか、この中身です。

これも前回と同じで、こういうワードが入っていたりだとか、こ

ういう文言が入っていればいいだとかというところでこれを進めていかないと、この文章を一語一語とって行って、ここはです、ますでという形だと、なかなか進まないと思いますので、ライフステージに応じたスポーツ活動の推進という中で、ワードで考えていただければ、少し考えやすいのかなというふうに思いますが、いかがでしょう。

石井委員 ①は豊かな生涯を説明しているんだと思うんです。その豊かな生涯をここでシンプルに説明すればいいので、ここは子供の内容が非常に多いです。私は、介護福祉課が出ているので、障害とか高齢とかも簡単に加えて、子供の部分をこんなにいっぱい説明しなくてもいいかなというふうに思います。

植田委員長 ほかに何かございますか。逆に、何か加筆はないでしょうか。

雨宮委員 雨宮ですけど、私は、子供というのも大事なことだと思ひまして、心のケアというのも1つここに入れてもらうと助かるのかなと思っているんですけど。

雨宮委員 ええ、バリアフリーですね。というのは、子供のときから教えないと、スポーツのときの礼から始まって礼で終わるスポーツがたくさんありますけれども、そういうのを小さいときから教えてあげないと、弱者に対しても高齢者に対しても、1つの勉強になるんじゃないかと思うんです。

ちよっとうまくまとまらないんですけども。

植田委員長 ありがとうございます。心のケアはいいと思うんですけど、バリアフリーになってくると、多分、環境のほうですか。

安東委員 ライフステージに応じたということになると、子供たちから生涯を通じてということと、その中でも不幸にして障害を持たれた方もありますし、時系列の問題と幅の問題ですね、そういうものが包含されるべきだろうと思います。全ての人の、誰でもの生涯に応じてスポーツを楽しむというこふうとができるというふうな考え方で作成してもらえばいいのではないかと思います。

植田委員長 今のところ、話をまとめますと、①につきましては、子供の内容が少し多いので、もう少し高齢者のことが入ってきてもいいかなと。また、心のケアについてもこの中で少しうたってもいいのではないかとこのところ、今、意見が挙がっておりますが、いかかでしょうか。

石原生涯学習課長 基本理念をぎゅっと圧縮してというお話があって、今、雨宮さんがいろんな子供の問題とか子供のころからの心とか、いろんなことを知るみたいなお話なんかもあったりして、ここを入れようと思うといいお話がいっぱい入れられるなというようなご意見をたくさんいただいたかなと思っているんですが、こちらの基本目標のほうは、理念はもっとぎゅっとなんですけど、目標のほうももっとぼつというか、増やしてかさを増させてもよろしいという感じでしょうか。

石井さんも、環境のところはもうちょっと書き込みがいるんじゃないのというようなご指摘もいただいていますので。

石井委員 ③ですね。

石原生涯学習課長 ええ、はい。どれも同じぐらいの分量にはしていかないと、バランスというか、あまり短過ぎるのはやる気ないのみたいな見え方もしてしまうので。

植田委員長 ありがとうございます。やっぱりそうなってくると、目標が今一度、どこに設定するか、ここで目標にするのか、先ほどの第5章の中で網羅できるのかというところが、多分、ちょっとひっかかりがあるかなという気がするんですが。

石井委員 5章のほうは、ここの3章のところはわりと観念的でいいと思うんです。5章になったら具体的にすればいいので、石原さんおっしゃったように、分量を同じぐらいにして、概念を述べればいいんじゃないですか。

だから、①では、ちょっと子供のところはやたら説明的なんだけれども、障害者とか高齢者を入れていただければ私はいいと思いま

す。

安東委員 誰でもということですね。

植田委員長 ①のところに関しましては、大きく文章、文言の変更等はなく、大枠はこれで進めさせていただくということによろしいでしょうか。

ありがとうございます。では、①につきましては、加筆等をまたお願いする形になると思いますが、次に進めさせていただきたいと思います。

②のスポーツ・運動を通した健康づくりというところに入ります。

石井委員 ②のところでは、この文章自体が「ウォーキング、健康体操、ヨガなど気軽に行えるレクリエーション」って、ウォーキングや健康体操、ヨガがレクリエーションになっちゃっているのでもちよっと違和感を持ちました。

そこで、「ウォーキング、健康体操、ヨガなど気軽に行える運動や」、今度はレクリエーションを入れたんですけど、「フォークダンス、輪投げなどレクリエーション的なプログラム」も健康づくりに役立ちます。そうしたスポーツを、何とかかんとかに提供していきますみたいな、文章自体が、ウォーキング、健康体操、ヨガってレクリエーションと言っていいですか。

田中副委員長 というよりも、ウォーキングとか、こういう個々のやつを出すというのがちよっと違和感がある。

千本木委員 具体的に種目を絞るということ自体が。

田中副委員長 そうしたら、いっぱい挙げなくちゃいけないので、もう少しスポーツとか運動とか。代表して何かそういう、今一般市民が行われているようなウォーキングであるとか、そういう表現をして、スポーツや、ラジオ体操でもいいですけど、ラジオ体操などというのだったら、そういうことができる場とか行事をつくることによって健康づくりに関与するんだとか、つくっていくんだみたいな表現のほうがいいんじゃないですか。

これもどうかなとは思いますが、団体名がずらずらと出てくるんですけども、基本目標のところ、これは。

安東委員 ちよつと基本目標では具体的過ぎますな。

田中副委員長 これは、後の実際のところで。

安東委員 具体的な施策でいいと思います。

田中副委員長 そこが協力してやるんだみたいな表現にしたほうがよろしいのかなという気はしますよね。ちよつとここ、スポーツ・運動を通した健康づくりといったときに、基本目標は一体どういうふうな表現をしたらいいのか、ちよつと考えがまだ及ばないんですが。

植田委員長 私は、運動施設の人間ですので、固有名詞のウォーキング、健康体操、ヨガがほんとうに気楽に行えるのかという部分も含めまして、あんまりここに固有名詞はというのは、私個人的には出さないほうがいいのかなということで思っております。

また、小金井市の何体操でしたっけ、たしかさくら体操がありましたよね。ああいうのであれば、ここに入ってくるのはいいのかなというふうに思います。

それと、この②をお話しするのに、先ほど団体名が入っているところなんですが、皆さんに再度ご確認をしたいなと思うんですけども、今、小金井市である団体の役割だとかというのを、ちよつと事務局のほうで、こちらの、今日添付いただいているやつで、再度。これは役割になっているんですよ。

松本スポーツ振興係長 今、そのお手元見ていただいている図みたいなものなんですが、競技スポーツ、コミュニティスポーツということで、競技スポーツは小金井市体育協会、それからコミュニティスポーツはNPO法人の黄金井倶楽部、それから指定管理者、この3者に教育委員会とスポーツ推進協議会、これが下支えをする、要は指導、援助、支援をするというようなイメージでこの図をつくりました。

簡単に言うと、本来、5つの団体が5つの輪でそれぞれ協力し合うという形でもよかったんですが、そこはちよつと皆さんのお考え

をお聞きしてというところになるので。

植田委員長

ありがとうございます。

そうすると、ここの②が、今もうまとめてしまうと、二、三行ぐらいの文章になってしまうので、ちょっと確認なんですけど、固有名詞は出さないということで、仮に入れるのであればさくら体操ということは、皆さん同意見ということですか。

あと、団体名につきまして、今、ちょっと簡単にご説明をいただきましたけれども。

石井委員

各所関連団体みたいなのもいいわけですけど。ただ、この1つウォーキングとか健康体操は、例えばという形でずらずら並べても、私は悪くはないと思っています。

例えば私はフォークダンスなどを書いてありますけれども、あ、そういうのもありかみたいところで、少し分量を同じにするのであれば、ここはあんまり。「それぞれの年代に応じたスポーツライフを創り出すためには、本格的なスポーツとともに身近な場所で気軽に行われ」というような形にすれば、全部網羅するかなという気はします。

それで、本格的なスポーツというのは大体皆さんおわかりだから、野球とか何とかいろいろありますけど、そうじゃない気軽に活動ができることが重要で、その気軽な活動として、ここにずらずら挙げてもおかしくはないかなと思うんです。

さくら体操は私がつくってきたものですけど、さくら体操はどういう感覚で、今、どこにどう入れようと思われたんですか。

植田委員長

気軽に参加できるという意味で。具体名を出すのであれば。

田澤委員

そうですね。ラジオ体操とかみんなが知っているようなということですね。

石井委員

ああ、そういうふうに。これはただの固有名詞ですよ、ウォーキングとか健康体操。ヨガはちょっと違いますけれども、さくら体操という名称に近いものですけど、ヨガというのもいろいろあるんですか。とすれば、いわゆる普通の名詞。

植田委員長 多分、皆さん、それぞれスポーツやられて、安東委員だったら卓球は気軽にできる。私だったら、水泳だったら気軽に、剣道だったら気軽にだとか、陸上だったら気軽にという形になってきてしまうと思うんです。みんなそれぞれ自分たちが、全然気軽にできるよという発想になってしまうので。

石井委員 でも、市がお考えになったのは、気軽にというのは、例えば剣道だったら防具つけて何とか場所が必要でとか思いますよね。私のってはちっとも気軽じゃないですね。

田澤委員 でも、スポーツちゃんばらとか何とかとかあるから。

千本木委員 でも、気軽というのは、どういうスポーツであろうと、とにかくとっかかりだよ。入るための第一ステージじゃないけども、気軽にそこに門をたたくとか、入門するとか、気軽さ。あまり多くを考えちゃうと、剣道はそれこそ難しい1つの、礼で始まって礼で終わる日本古来のスポーツであると。私も60年弱やっているけども、市民を呼ぶときには、とにかく気軽に遊び感覚でおいでと。遊び感覚でやって気軽にやって、あ、そこで自分に合ったスポーツが見出せるのかなと。そこもう1つ踏み込んだ専門的なことになるのかなと。まず、気軽に敷居をまたぐと。それがいいんじゃないかなと思うんです。気軽というのはそういう意味だと思うの。

田澤委員 僕も、固有名詞というか、ウォーキングとか健康体操、出すのも決して悪いことではないと思うんです。もしも出すのであれば、その前に括弧か何かして例としてウォーキングとか何とかと入れて、あとは僕がもしもここに出してもらいたいと思ったら、これから2020年のオリ・パラもあるので、今年、例えばボッチャがメダルをとったとか、そういう障害者でもできたり、子供でもできたり、お年寄りでもできたりというスポーツなんかも入れてあげたりとかということもいいんじゃないかと。

あとは、スポーツ団体の固有名詞というのは、皆さんの意見で、出すのか出さないかはどちらでもいいと思うんですけども。

植田委員長 何より、これを読んだ方が、じゃ、気軽にスポーツ、運動を始めてみましょうというふうに思えるような形になりたいですね。

千本木委員 そうそう、それが大事なんです。気軽にね。深く考えないで。

石原生涯学習課長 ちょっとよろしいですか。石原です。これ、たたき台のやつ、どこかの市はこれでいいよとできちゃったものを、そのままとってきてあって、今、さすが小金井の市民の方、深い市民力があるから、いろいろと、もっとこれじゃ、ただ名前とか名詞だけずらずらっと並べても中身ないよというところをご指摘いただいたのかなと思って。

理念を説明するという中で、このスポーツ・運動を通した健康づくりということだと、皆様から今いただいたご意見とかをヒントにすると、ちょっとスポーツを習慣化していただくという観点で、習慣化していただかないと健康づくりにつながらないので、習慣化するために何がいるかと、とっかかりだとか気軽さだとか、あと障害があってもなくてもとか、そういった運動、もっと理念を詳しく説明するような目標に膨らませていくことによって、今日いただいたご意見はちょっとまとめさせていただいて、その中に散らばせるものとして何かいい小金井のアピールになるような体制を入れるか入れないかとか、障害者が取り組めるようなスポーツを入れるか入れないかという形でつくっていけばいいのかなと思いました。

植田委員長 ありがとうございます。今の石原課長のお答えが、多分全てだと思います。あと、固有名詞が入るか入らないかとかの文章の作成で多少変わってくると思いますので、②に関してはあとはお任せするということがいけませんか。

では、次です。③のスポーツ環境の充実というところでいけませんか。

私も、「地域の一体感や活力を醸成するものであり」という言葉が入っておりますので、非常にここはいいのではないかなというふうに。

石井委員 この中に小金井市のアピールをちょっと入れれば、文章は広がり

ますよね。緑が豊かで何とかかんとか、公園が多いとか。それを入れたらいいんじゃないですか、ボリュームが。

具体的な、何をどうするかという、建物を建てるとか、そういう話は後になるんだけど、小金井市の現状を生かすということをイメージするためには、今の現状のいいところを並べておいたらいかがでしょうか。

植田委員長 せっかくなので、小金井市に引っ越されてきたばかりの、小金井のいいところをちょっと。

早瀬委員 そうですね。私、茨城県から小金井市のほうに引っ越してきたんですけど、歩いて行ける公園が茨城県のときはなかったんです。車で公園に行って子供を遊ばせないといけなかったの、私は緑町なんですけど、歩いて小金井公園に行けたりとか、公園がたくさんあるので、そういうところって子育てしていたらすごく大事だなんて思うので、そこは小金井市ならではの。東京ならではのんですか、茨城に住んでいたときは違うなというところが、まず初めに小金井に来て子育てをしている中で思ったので、緑が豊かとか、野川公園とか思って。私、あんまり野川公園には行ったことないんですけど、そこは小金井市ならではのですね。

植田委員長 ありがとうございます。私たちが忘れてしまっている、もしくは気づかない感覚だと思うので、非常に。お子さんを育てるのには、ああ、いいまちだなというふうに。

早瀬委員 はい、それは、ここに来てすごく思いました。子育てしていく中で、緑が多いというのは、マイナスイオンが出ているのもあるじゃないですか。緑を見ているだけでほんとうに精神が落ち着くというか、そこってなかなかない特徴だから、小金井市の人って、ほかの東京の23区とかと比べても、スポーツを一般の方でされている割合が多いんじゃないのかなというのは思っていたんですけど、このパーセンテージを見て、どうなのかちょっとほかと比べていないのでわからないんですけど。

植田委員長 初めてきたところでそういう感覚を持っていただいたということ

は、そういうところだと思うんですね。今、私たちは、公園があって歩ける場所がある、走る場所がある、それが当たり前を感じてしまっているの、価値観が少し低下してしまっているというのは否めないのかなというふうに。

千本木委員 ちょっと余談になるけど、私も小金井市の教育委員会に長くいて、4月には教員の人事異動があります。東京都の教育委員会で。私も平成元年、ちょっとかかわって携わってきたんだけど、23区26市、小金井にカードを希望する教員がとても多いんです。事実として。それはなぜかという、今言われたとおり、とにかく地形的にも真ん中に通っている、最近、数年前か、高架が上がっている。円形なんです。南と北にはでかい公園があると。条件も、円形で、小学校が9つ、中学校が5つと。あと市民の資質も、教員に言わせると、とにかく小金井の小中学校にカードを出す教員が、私が経験した平成元年、5年ほどかかわってきたけども、その5年間、突出していました。

それは何を言わんとしてるか、やっぱり、今言われたとおり、子供、小中学生の学業を学ぶ場所等々が、学校の教員の中で、口伝で、小金井はいいぞ、いいぞと。金はないけれども、予算的に金はないけれども、環境ではすばらしい。

安東委員 それはそのうちわかる。

千本木委員 私なんか、かかわってきて、私も小金井で生まれて、将来小金井で骨を埋めるけれども、小金井で育って、今言われたとおり、外部から来て小金井はほんとうにすばらしいと。市長じゃないけれども、ほんとうにうれしいです。ありがとうございます。

植田委員長 この③に關しましては、早瀬さんのご意見を盛り込んで、皆様も同じように小金井市愛があふれていることは十分理解できましたので、そういったところを盛り込んでいただいて、③はまたもんでいただくということよろしいでしょうか。早瀬さん、ありがとうございます。

早瀬委員 ありがとうございます。

雨宮委員 スポーツ環境の充実ということで、ちょっと場所がないというか、私は武蔵小金井駅前からちょっと入ったところなんですけど、うちの近くには何もありませんよ、会場自体が。例えば黄金井倶楽部さんみたいに体育館のところで、そういうようなところが近くにないということで、会場を変えるのが大変なときでもあるんです。私は吹き矢をやっているんですけども、会場がなくて困るときがあるんで、そういうようなスポーツ環境の充実というんだったら、もうちょっとつくってほしいなど。これはあくまでも私の願望ですけど。黄金井倶楽部さんにはいつもお世話になっちゃって、ずっとお世話になったことなんですけれども。

 ちょっとあそこまでは、小金井公園ね、ちょっと時間かかるようなところだったので、駅の周りにちょっとつくってほしいな、借りられるようなところがあればいいなと思ったりもするんですけど。

植田委員長 大きいのをつくってもらいましょう。

雨宮委員 市庁舎だけできないんだからだめですよ。

田中副委員長 スポーツ環境の充実ということを考えて、早瀬さんのほうから緑が多いところだということなんですけども、考えてみると、小金井市というのは、公園と学校、大学、文教都市というか、そういうところだろうと思うんです。

 ですから、公園と大学や小中学校の公的な施設をうまく使うとか、そういう状況都市の利点を使ってスポーツ環境を充実していくとか、そういう観点が必要じゃないかなと。新しいものをつくるのは大変だから、やっぱり小学校や中学校の、開放していると思うんですけども、さらなる開放であるとか、そういう利用の仕方がこのスポーツ環境の充実というところで具体的なところに出てくればよろしいのかなと思います。

田澤委員 いいですか。僕が聞いている情報だと、特に緑中学校と緑小学校周辺とか法政大学周辺、あの辺って小中学校があつたり法政大学とかのグラウンドとかあつたりするんですけど、僕が聞いているところなんですけど、あの辺、非常に居住している方たちからのクレーム

というかがあって、そういう学校を使わせてもらえないというのがあるという聞いています。例えば法政大学なんかはすごく立派なサッカーグラウンドとかナイター設備もあつたりするようなところもあるんですけど、日曜日はグラウンドを学生でも使えないとか。すごいちゃんとした人工芝であつたりとか、そういうのもあつたり、クラブハウスもあつたりするんですけど、使わせてもらえないとか。

例えば緑中学校あたりだと、学校開放で、この辺の小中学校だと7時から9時まで、例えばバレーボールやっていますよとか、卓球やっていますよとかのも、やっていたところがどんどん締め出されて周りから苦情が来ているので使えないようになっているというのを聞いているので、そういう政策をここでうまく入れてもらって、ここだけじゃないと思うんですけども、このスポーツの關係のことを今そこでやっているわけなので、その辺をうまくやってもらって、なるべく、今度は行政さんのほうとか、あと各小中学校ね、もちろん教育委員とかのほうからも、そういう各学校をとにかく充実して使わせてもらえるというようにやっていけば、例えばいろんな体協さん、スポーツ推進員、黄金井倶楽部さんであと普通の市民の方たちも使えるようには思うんですけど、先ほど田中先生も言われたように、学校施設とかそういう公的な施設をうまく使っていけるようにというんですけど、なかなか学校、学校の、今だと校長先生じゃなくて副校長さんとかの、その人の裁量で使う、使わないとかというのが決まったりというのもうわさでは聞いてしまうので、その辺をうまく使えるようにしていくきっかけになればと思うので、そういう文言が、そういうようなものが入ってもらえるとすごく助かるんじゃないかなと思います。

以上です。

安東委員

安東です。ここは、計画の基本的な考え方という、第3章ですので、田中先生がおっしゃったような文教都市の特徴を生かして進めていくということではないかと思えます。第5章で具体的な施策として出てきますので、補正財源を何とかしろよとか、いいんじゃないかとか、いろんな話を第5章のほうですればいいというふうに考えます。

したがって、包括的な、こういう考え方でいくんだということで、ここへいいのではないかというふうに思えます。

植田委員長 では、時間もありますので、③はこれで、④のほうに移っていき
たいと思います。

④競技力向上に向けた選手育成、指導者の資質向上と。

石井委員 ちょっと私、書いています、石井です。これ、すごく唐突に感じ
ます。唐突なんだけど、これはとても大事なことなので、一文を、
こんな文を加えたらいいんじゃないかということで、市民全体のス
ポーツ参加への広がりをもとに次へつなげるといいかなというふ
うに思いました。

植田委員長 私も、実はこれに関しては田中先生とお話して、オリンピック
出ますみたいな形がすごくとれたので、それはそれで非常にいいこ
とだとは思いますが、もう少し末端部分まで下ろして考え
られるような文章になれば、今も石井委員も言っていたよう
な形で書き取れるのではないかなというふうに。

田中副委員長 選手育成とか指導者の資質向上となると、小金井市がそれを担っ
ているというので、これは、援助するというか、育成するまで
はいけないと思うので、ちょっと表現を変えたりして。要は、オリ
ンピックやパラリンピックがあることによってスポーツの認識を
高めて、みんな興味を持って参加しようじゃないかということが、
この一番の意義だと思うので、選手育成、指導者つくるよみたい
になると、誰がそれをやるのみたいなことになっちゃうので、表現を
もうちょっと変えたほうがいいのかもしいですね、こここのこ
ろは。

でも、競技力向上というのは、小金井市市町村大会とかあるんで
すか。

松本スポーツ振興係長 はい、あります。

田中副委員長 そのために頑張るんだという。

松本スポーツ振興係長 そうですね。これは、小金井倶楽部さんのほうでも、競
技力向上ということで事業を展開していただいておりますので、競

技力向上に向けた選手の育成というのも、挙げることはいいのかな
とは思う……。

田中副委員長 やぶさかではないのですが。先ほど、石井さんのは、前文つける
といいですよ。

石井委員 そのままぼんとはいかないんだけど、そんなことを加えて、少
し文書変えていただければ。競技力向上に向けた選手育成も指導の
資質向上もいいと思うので。ただ、あまりにぼんと唐突だなと思っ
ちゃうんです。2020年東京オリンピックと始まっちゃうと。

植田委員長 運動をしていない方がこれから始める、ちょっとしかやっていな
い人がもう少し増やす。また楽しくなってきた人がもっと頻繁に、
なおかつもっと上を目指したいんだという方が、この今の④の内容
に入ってくるというところですか。

田中副委員長 こういうのを入れておけばいいかというような。

田澤委員 要は、スポーツをきっかけとした、スポーツという裾野を広げて
競技力向上とか指導者は資質向上とかということに持っていけれ
ばいいわけですよ。

植田委員長 この④に関しては、もう少し説明があればいいのかなというご
理解でよろしいでしょうか。

では、①から④につきまして、おおむね皆さん、この4本の柱に
関してはご理解、ご納得いただいております、あとはもう少し文
章のつけ足しなど、そういったもので次月、再度皆さんにお見せで
きればということで、事務局、よろしいでしょうか。

石原生涯学習課長 次回の会議のときにはパブコメ始める予定なんです。なので、
パブリックコメントで完成系に近いものを次回の会議と同時ぐら
いに市民の方にごらんいただくような。

植田委員長 今日、ここで話しして、おおむね納得が皆さんしていますので、
メールなりでの、要は審議ということでもよろしいんじゃないですか。

石原生涯学習課長　そうですね。あと、ちょっとまだご審議いただいているんですけど、施策が5章の部分みたいなもの、お題目、立派なことが書いてあるけど、何してくれるんだよというところが見えない。市民の方も意見の出しようがないかなと思うので、間に合うかわからないんですけど、できるだけこの基本目標とかの直しとあわせて、ひもつく施策とかも、皆さん方にちょっと今日のご意見の参考に、できるだけ施策についても目標にひもつくような表現とか、そういったものを工夫しながら、皆さん方にメールなどで見ていただいて、ちょっとパブリックコメントのときは完成形で、検討途上のもので市民のご意見を出すような形になっちゃうかと思うんですけども、市民の方のご意見とその委員の方からも12月15日以降に意見を、市民から意見いただくのと同時に検討して、何とか来年完成という形に持っていけるようにしたいと思います。

田中副委員長　私はパブコメ前。これは次をやってからパブコメというのにはならないですか。12月15日に次回がありますよね。そこで、ある程度今のお話がまとまっていて、施策をその間に考えて、あるいは考えをそちらのほうに、そっちのメールを待っているんじゃなくて、こっちで言いたい人はそっちへ流して、それをまとめてもう1回ここでというのはどうなんですか。

松本スポーツ振興係長　があるので、仮に12月15日から1カ月、1年半ばですることになると、それを含めて1月、2月、完成形を見るということを考えていたので。パブコメで一般市民の方の意見を聞きながら、次回の5章を審議して行って、最終的に、そのパブコメを含めて2月ぐらいである程度の、ほんとうに完成したものとは思ってはいました。

石原生涯学習課長　次回の会議は12月15日ぐらいなので、そこでご意見いただいて、12月20日ぐらいにパブコメというのはきつい？　今、先ほど発言したんですけど、あの発言した中身は結構乱暴なやり方で、実現できる自信も、自信ない中、この日付だと、こうしかないということで申し上げたところがあるので、できるならば、副委員長より言っていただいたように、次の会議で5章を皆さんにごらんいた

だいて、それからパブコメにさせていただいたほうが、私としても少し……。

松本スポーツ振興係長　それでは、市報は12月15日号でパブリックコメントを皆さんに求めますということで市報で流します。その日付を若干遅めにして、次回、第5章を審議していただいて、それを含めた形で市内に設置するというのでやりたいと思います。それで可能かと思えます。

石井委員　それで、お願いですけれども、今の素案を最低限順序を変えるとか、ですます調に直すとか、今日、審議した内容程度は入れる新しいものって、パブコメの前にできますか。つまり、次の会議の前にできますか。

石原生涯学習課長　そうやってやらないと、多分、次の会議の後、パブコメにならないと思うので、未完成な部分とかも、バグじゃないですけど、そういうものも出ちゃうかもしれないんですけど、ここは直ってないじゃないというのがいっぱい出ちゃうかもしれませんけれども、ちょっとそういう方向でやらせて。

松本スポーツ振興係長　でないと、目が行ったり来たりするので、そこがわずらわしくなると、努力して作っていきます。

石井委員　それを、最低限1週間ぐらい前までに送っていただかないと、見る時間がないと。

この⑤はどうなりますか。成果目標の%、せっかく書いてきてくださったもの、これはそれなりに大事だと思うので、このぐらいを目標としたいとか、そんなふうに入れたら、⑤でもいいんです、(3)でもいいんですけど。

田中副委員長　ちょっと説明があるかもしれないですよ。例えば、さっきちらっと見てたんですけども、全国平均は53%ぐらいなんだそうです。それに比べると、多少小金井市にスポーツの実施率は高いというふうに出ていまして、東京都が出している世界トップレベルが70%なので、東京都は70%まで5年後ぐらいに持っていききたいという

ふうに。

田澤委員 そうですね、東京都か何かの目標になっています。

田中委員 それで、3年後だから、高齢者65%でいいかという、多分そういう論理でこれがつくられたんだと思うんですけど、5年後でもいいと思うんですけども、小金井市も世界トップレベルの70%、10人のうち7人は結構運動しているんだみたいなところを目指すんだというのは、それは構わないとは思いますが、そこに説明を加えていただいてというふうにつくっていただければよろしいんじゃないかと。

石原生涯学習課長 スポーツの実施率って、都道府県別の差が結構大きくて、小金井市がチャレンジデーで負けた鹿児島県なんかは、県の平均で80%あるんです。

田中副委員長 ただ、全国だと53って書いてあるから、それは多少高いんだけどみたいな説明をつけ加えて、なおかつ、もうちょっとみんなで頑張りましょうみたいなところで。

石井委員 チャレンジデーに関しては、やっても出していないんですよ。ファクスしてもなかなか入らなかったり、それから出す場所があんまりだったりで、実際には、あの数字よりもっと多いと思います。

私の知っている範囲でも、みんなやっても報告をしていないんですよ。だから、鹿児島ですか、そっちのほうが報告するシステムかきっと。小金井市の人はかなりやっていますよね、何かしら。

田澤委員 観光地域というのがありますから、鹿児島は。観光客が、例えば小金井公園を歩いていけばウォーキングと認めて、それで数に入るというのがあるので、そういう観光地と、その差が絶対出てくると思います。

石原生涯学習課長 鹿児島80%、チャレンジデーの1日じゃなくて、スポーツ習慣が80%あるというのはすごいです。

田澤委員 だって、小金井の子どもさんなんか、運動、スポーツテストみたいなのは、ちょっとやっぱり低いほうですよ。実施率も大事ですけど、成果としてそういう数字が出てこないというのは、小金井は運動できて、スポーツ的に若干弱いというふうに、どちらかというところに入ってしまいかと。それを上げていこうということになるわけですよ。

田中副委員長 田中です。基本理念や基本目標、成果目標ということが大体出て、皆さんもご理解して、こんな方法でいこうというお話でまとまっているんですけども、ちょっと気になるのが、どうしても、障害者の方であるとか、そういうところを支えるだとか、そういう視点をどこかに入れてあげるといふか、施策のほうとかそういうところに出てくると、後ろのほうを見ると、必ず障害者のスポーツであるとか環境とか、そういうところにも一応うたってはくれているんですよ。そこでこの基本目標みたいなところに1つ、5番目でも3の次でもいいんですけど、そういう障害者のためのスポーツ活動の応援とか支援とか、そういう視点はどうですか。

石原生涯学習課長 4番の競技力向上とかがって大壇上に出す必要はあるかなというところもある。ここ、例えば見るスポーツって、やらなくてもいろいろなものを観戦するとか、そのボランティアをやるとか、障害者の方に何かスポーツやることの助けをすることとか、そういう方法って、全部オリンピック・パラリンピックの中にある話じゃないですか。そういうものがあって、その世界的なイベントをすると、オリンピック東京に来るよみたいな、そういう流れもあるのかなと思います。

植田委員長 ④ですけど、競技力向上に向けた、この中身としては幅広くスポーツに参加というところであったと、ここにそういった内容が入ってきてもいいのかなと。ただ、そこに入ってくるときに、競技力向上に向けた選手育成、指導者の資質向上となってしまうと、ちょっと厳しいのはあるのかもしれないですね。ここは、ちょっと今うまく言えないんですが。

石井委員 私は、あまり殊さら障害というところを文章にしなくてもいいと思っています。つまり、障害も当たり前だから。だから、ライフステージに応じた中で障害があってもという言葉が一言入ってもいいんだけど、あえて障害者の人を支えようとか、そういうのは、私自身の好みではありません。

田中副委員長 支えるというよりは、一緒に楽しむという感じなんですよ。

石井委員 そう。それは、ライフステージに応じたところで、ちょっとさらっと言えばいいのかな。もうちょっと具体的な施策になったら、障害者の人を支援するとか何かそれもあるといいけれども、基本目標の中で、あんまり障害、障害って言わないほうがいいかな。特別視しなくても。

田中副委員長 私は、その視点があってもいいかなと思って、あえて皆さんのご意見を言ってもらったほうがいいんじゃないかと。

田澤委員 でも、何回か前のオリンピックぐらいから、オリンピックだけではなくて、オリンピック・パラリンピックと言っているようになってるので、逆に障害者のためのスポーツが、そういう頂点としてパラリンピックもあるわけですから、逆に障害者のスポーツに目を向けるというのも、今となっては別に普通のことだから、逆に出しているのもだめなんですか。

石井委員 私の基本的な考え方は、パラリンピックの出場者の中には、普通のオリンピックに出られる人たちも本来いるんですよ、たくさん。オリンピックの中で障害部門としてやってもいいはずなのが、パラリンピックって別になっちゃっているんですよ。あれ自体が、私の中では非常に問題で、やり勝手上しようがないんだろうけれども、あれはバリアフリーではないなと思っています。

それは、私の個人的な考え方です。

田澤委員 でも、こここのところのオリンピックでは、例えば卓球のドイツの人とか女子だか誰かとか、あと陸上の、どこかでヨーロッパの人で問題になっちゃった義足のランナーとかもいるし、幅跳びの人も出

てくるとかということになってきているから、もちろん、そういう区別とか差別ではなくて、いい意味での障害者ということにクローズアップしていくのも、これからとしては大事ではあると思うので。

雨宮委員 障害者といっても十人十色なんですよ。わかりますか。

石井委員 ええ。私、一応障害をやっているのです。

雨宮委員 私が障害者です。私が見ていて十人十色、耳の聞こえない人もいるし足のない人も、脳梗塞で右手が聞けなかったり、右手が。そういう人というのは、見てもわからない人もいます。私なんかわからないと思いますよ。どこが悪いのと。会長、言われました。雨宮、どこが悪いんだってよく言われます。ただ、夏でも長袖着ているぐらいですので、どうしても隠したいというか、障害者の人は。だから、スポーツはやりたいんだけど、出るのかどうもなという感じなんですよね。だと思っんですよ。私なんか、特にシャイですので、人前に出るのだから、ここでちょっと出るのもおこがましいぐらいなんですけど、私も障害者の仲間をいくらかでも支えるんじゃないんです、自分でやれということで、私の場合は自分でやらせていますけれども、そういう意味で、自分でやらなくちゃいけないという意識が大分出てきているんです。だから、あんまり支えるというんで、そういう言い方をされちゃうとまた困るんですけれども、自分の力で何かやりたいというのは、確かに増えてきています。

ただ、こんなこと言って悪いのか、子供たちとか大人の人にも言われたんですけれども、おまえなんか死んじゃえとか、そんなことも言われた人もいますし、どけどけどかやられる。ちょっとあれなんですけれども、そんなことを言っちゃまずいか、ごめんなさい、これでやめておきます。

石原生涯学習課長 確かに石井委員言われるように、東京都のオリンピック・パラリンピック準備局の中に障害者スポーツ課みたいなのところがあって、そこの職員さんなんかはよく理解進んでいて、障害者スポーツ課なんていう名称がなくなって、そんな障害者、健常者のスポーツとかいう垣根関係なく、スポーツ施策振興というのでやる日が来るのが自分たちの目標ですということをおっしゃっておいりました。

一方、平成27年度、昨年度なんですけれども、生涯学習の関係で、第3次生涯学習推進計画というのをつくりました。それで7年ぐらい前につくったものは生涯学習のライフステージ別みたいな形で、年代別とか障害者とか、そういう区分みたいなのをつくって、こういうタイプの方々向けのこういうものみたいなものを並べた計画にしていたんですけれども、今回、あんまり細分化しないで、目標を絞った計画にしようと思ったら、あまり障害者のことを触れていないような計画の作りだったんですね。審議会の中で、ほんとうにこれ、障害者のこととか頭に入れながらつくった？ みたいなことをおっしゃる人もいらっしゃるんで、全く何か根拠をつくったときに、それが読んだ人たち、読み手の人たちが、石井委員が言われたようなところに追いついてくださるのかくださらないのかということも考えながら、入れるか入れないか、時期を見ながら、今回はまだ達していないな、次つくったときは大分達してきたんじゃないという中で、1つの色に染めていくとか、そういうやり方もあるかなと思って、現段階で皆さん方がどのようなご意見をお持ちかで決めていただければと。

植田委員長

時間もありますので、そこに関しては、最後、これは多数決みたいな形になると嫌らしいんですけれども、それを盛り込んでいくのか、石井委員がおっしゃるとおり、それが当たり前。これはほんとうにいろんな人がいろんなふうにおっしゃっているんで、どちらの意見もよくわかりますし、今、課長言っていたとおおり、文字でしかぱっと見なくて、この中の議論は当然皆さんには届かないというのも確かだと思いますし、そうはいつでも、私たちがこの場でこれを決めている以上、どちらにするかという方向性は決めていけないといけません。また、我々で決めたものが市民の皆さんの意見を頂戴するという形にもなりますので、これが今、とりあえず多数決で載せる、載せないという形で決をとって、それに対して、今度、パブリックコメントで、何で入っているの、入っていないのというご意見を頂戴するというのも、また1つなのかなというふうに思いますが、どうですか。

田澤委員

パブリックコメントで市民の皆さんの意見を聞くということは、一旦出す、文書とかで読んでもらったほうがわかりやすいと思うの

で、そういう文章は、一文だけでもというか、ちょっとでも、障がい者のスポーツとか障がい者の方のためのだけではないんですけど、一生涯の生涯ともかけた意味での障がい者スポーツという意味で考えると、そういうことは私たちは考えていますよというための文章は一旦出して、パブリックコメントをいただいて、そこも逆にいらんんじゃないか、そういう区別、差別なんじゃないかという意見があれば削除して、それも含めたことを私たちは考えていますよと理解されているんだったら、それは省いてもいいかなと僕は感じるんですけども。

田中副委員長 おもしろい事を言いましたよね、生涯スポーツ。

秋澤委員 私は、触れてもいいと思うんです。先ほど石井委員もちょっと言ったかと思うんですが、①のライフステージに応じたスポーツ活動の推進、この中にちょっと入れる形で、今の段階では、このライフステージということで、子供とか成人、そしてその中にも1つ障害者をというのが入って、具体的に施策がというふうになっていくのかなと思うので、触れるのであれば、その部分でちょっと触れていただくのがいいのかなと。

ここでいう、④の競技力向上に向けた選手の育成って、このところはこれでいいと思うんです。もうちょっと前にあれでしたら、石井委員が言ったようなのが唐突過ぎるので、ちょっと入れた形でやって、やはり誰でもという中には、競技スポーツを一生懸命やっている人ももちろん入るので、ここに障害のものというのは入れなくて、ここはオリパラという言葉が入っているので、それだけでいいのかなと思います。

田澤委員 ライフステージのところの一番上の文章で、「幼児期から高齢者まで生涯を通じて」ってあるんですけど、「幼児期から高齢者・障害者も」なのか、「障害者まで」なのか、ちょっと文章はわかりませんが、高齢者と障害者を重ねたぐらいの文字を入れるか何かで、「生涯を通じてスポーツを楽しむ」みたいな感じで、ちょっと障害者の方も考えていますよというような文を入れるのも一案かも。

田中副委員長 東京都の文章は、若いも若きも障害者も。

石井委員 基本的に、そういうことに私は違和感を覚えるわけです。つまり、幼児期から高齢者というのは年齢の問題ですよね。その中で、障害が幼児のときに受けるかどこで受けるかは別として、障害というのは、文章の中で①のところをこう直してくださいと言ったのは、障害を持ってということなので、幼児期から高齢というのは時期で、その中で障害をたとえ持ったとしてもスポーツに親しんでいきましょうというふうに書いてほしいなと思います。

千本木委員 いいですか。文章の端々じゃない、「いつでも、どこでも、だれでも」、この「だれでも」は、すごい幅広いんですよ。幼児期から高齢者、障害者も誰でも全て、国民がここに含まれるのかなと、大きく言うと。だから、そこで障害者とか幼児期とか高齢者、これが必要か否かはちょっとこっちに置いておいて、誰でもというのは全国民、男女問わずそこに含まれる、網羅されるのかなと。

植田委員長 なかなか難しい問題ですね。

田中副委員長 任せましょう。

植田委員長 どちらの考え方も正論ですし。

田澤委員 そうなんですよね、間違いはないから。

石井委員 違うわけではないんです、表現の仕方の違いだけで。

植田委員長 あとは、読み手の受け取り方によってくると思いますし、世界規模でオリンピック・パラリンピックって分けられてしまっていれば、やっぱりそういう方向に進んでいくのも当然といえば当然でしょうし、あとは市としても、どちらの方向に向かっていくかというところは当然ありますから、ここはそういった形で、申しわけないんですけど、1回投げるような形になってしましますが、そういう形で。

千本木委員 そうですね、進めましょう。

植田委員長 ということで、今日の審議につきましては以上となります。

安東委員 安東ですが、これはどうするんですか。これ、入れるんですか。

石井委員 ⑤の話ですけど。

安東委員 ⑤も何もしないで、⑤にしちゃうとおかしいんで、4つのやつでぼんと、こういうふうに入るといのでいいんじゃないですか。タイトルも番号もつけないで。全部で、はい、これといので、すとんと落とせるんじゃないかと思しますので。
 ただ、65%と東京都の70%は整合していますか。

石井委員 さっきおっしゃってくださった説明が必要なわけな。

安東委員 それをとっていただければ、ここの文字ぐらいになればいいんじゃないですか。

田中副委員長 東京都ではなくて、世界レベルでは70%。

安東委員 でも、70%に向上させるとなると、65は70じゃなきゃいかんのじゃないですか。でもないですか。

石井委員 それで、5年で、こっちは3年だから65なんです。

安東委員 じゃ、これ、3年後か5年後か。

石井委員 そう、書いておかないといけないんですね。

安東委員 ええ、書いておかないと、こういうところを突っ込む人、多いから。1カ所ぐらい突っ込むところを設けておくというのもパブコメの手かもしれませんね。

田中副委員長 5年後でも7年後でもいいんですけども、5年後には70%ぐらいの世界レベルまで皆さん運動するように頑張りましょうみた

いな。65って何か中途半端ですよ。どうせするなら70%で気しないでもないです。

植田委員長 では、5番のその他、何かございますでしょうか。時間が随分過ぎていきますので、ないようであれば、次回の策定委員会日程、12月15日の木曜日、場所はここ、801の会議室ということになります。事務局は何かございますでしょうか。

松本スポーツ振興係長 最後、事務局からお知らせ、ご連絡事項がございます。
1つは、お支払いする謝礼金ですね。それに伴う支出調書ということで、こちらの紙をマイナンバーを書いていただいて提出していただきたいんです。既にもらっている方は中にはいらっしゃるかな。

植田委員長 係長、あと何かありますか。

松本スポーツ振興係長 それと、私ども、今日、今4人います。前回、課長と私は紹介をさせていただきました。そのほかに、スタッフとして、これからこの会議に顔を出していただくこととなります。計画ということなので、私と課長だけではということで、ほかの職員も直接出て、どういう支援をして、スポーツをどう考えるかというところも実際に聞いてもらうということで、自己紹介をしていただいてよろしいですか。

宮スポーツ振興係主任 スポーツ振興係のほうで主に事業系を担当しております宮と申します。これから参加させていただきますので、よろしくお願いいたします。

三枝スポーツ振興係主事 スポーツ振興係の三枝と申します。今、スポーツ振興係に来て2年目です。担当業務は予算と庶務を主にやっております。よろしくお願いいたします。

植田委員長 では、第2回の策定委員会、これで終わりたいと思います。どうもお疲れさまでした。

— 了 —